

2026年度 住宅地盤技士（設計施工部門） 正解および解説

問題	正解	解 説
1	3	設問3：砂丘でなく、砂嘴（さし）の説明文である。
2	1	設問1：続成作用は風化でなく岩石化である。また設問中の固結度の大小関係も逆である。
3	2	設問2：粒径 75 mm 以上は石である。
4	4	設問1、設問2：土の状態をつかむ試験。設問3：土の圧縮性を調べる試験。
5	2	箱書きで示した記述は、記号2の語句を当てはめることで正しい文章となる。
6	4	設問4：地点Bの標高の方が地点Aより明らかに高いことが等高線から確認できる。
7	1	設問1：ロームはこね返されると軟弱化し、強度低下を招くので盛土材には適さない。
8	1	設問1：主な要因は、掘進・攪拌時でなく、引上げ攪拌時である。
9	4	設問4：捨てコンクリートを省略しても問題はない。
10	2	設問2：地形分類図でなく旧版地形図の内容である。
11	1	設問1：現地踏査は資料調査で懸念点を把握したうえで行うのが基本である。
12	4	設問4：計測値が必ず小さくなるとは言えない。
13	2	設問2：東西方向に補足しても干渉するだけで、南側に補足計測するのが正しい。
14	1	国土交通省告示 1113 号（最終改正：令和6年7月9日）参照。
15	3	設問3：擁壁底版の可能性もあるため地山と断定するのは誤り。
16	4	設問4：小口径既製コンクリートパイルは 最小長さ 2 m が原則である。
17	2	設問2： $B+2 \cdot (H-D_f) \cdot \tan \theta = 0.5+2 \times 1 \times 0.5 = 1.5 \text{ m}$
18	3	設問3：改良土量は $1.5 \text{ m} \times 150 \text{ m}^2 = 225 \text{ m}^3$ であり、最低 2 箇所採取する。
19	4	設問4：攪拌ムラの有無であり、強度を確認することはできない。
20	2	設問2：スラリー流出が生じやすいのは 砂質土ではなく粘性土である。
21	3	設問3：芯ずれの許容値は改良径の 1/6 かつ 100 mm 以内である。
22	1	設問1：改良体頭部の長期許容圧縮応力 $R_{a2} = 1/3 \times 600 \times 0.5 = 100 \text{ kN}$
23	3	設問3：改良長+1.0 m 程度まで試掘オーガーにより土をサンプリングする。
24	3	設問3：平均 N 値 2 以上 15 以下である。
25	4	設問4：長期ではなく短期許容ねじり強さである。
26	3	設問3：外接円径または対辺長の 100 倍以内を原則とする。
27	2	設問2：圧入のみで回転はしてはいけない。
28	1	設問1：深さ 1.5 m 以上の根切り工事をする場合である。
29	3	設問3：現場最終日でなく、毎日必ず持ち帰る。
30	2	設問2：盛土と切土を同時にした高さが 2 メートルを超える崖の場合である。